ふるさとわがまちづくり

中切町自治区

◆「中切町」のむかし

古くから「山と里の境はヒバリが鳴くか鳴かないかで決まる」と云われてきました。飯田街道が石野町から力石町に入る所が力石峠であり、この峠が山と里の境だと昔の人は言っていたそうです。

中切町はこの力石峠の東側にあり、町の中央を東西に国道１５３号線が通り、足助地区に接する４１世帯の自治区です。

以前この地は野口、中切、井ノ口（旧足助町）が１つの町を作っていたのですが、明治の変革により３つに分けられました。大正末までは足助町とのつながりが深く、足助八幡社の氏子も多かったと聞いています。行政的には豊田市に属してはいるものの、日常生活の面においては、旧足助町とのつながりが深かったといえます。

飯田街道や七里街道（岩津・足助間）とのかかわりも深く、とくに松平の河港に荷揚げされた塩などの海産物は、大島（旧足助町）経由でこの地にも運ばれたであろうし、石楠町にあった起倒流の棒の手もこの道を通って中切町にも伝承されています。

また、古い話しでは「中将様」の逸話があります。室町時代、都から二条関白良基がこの地に来たとき、深見丹波守も一緒でした。関白が帰ったあとも、深見丹波守だけはこの地に留まり、中切町一帯を治め「中将様、中将様」と土地の人々から崇められ、良い殿様だったといいます。

その丹波守がある年、出陣することになり、村人達が藤岡村の深見まで見送りました。この時を記念して深見という字が残ったと云われています。その後、丹波守の身の上を村人達が案じていると、１羽の真っ白な鳩が飛んで来て神明社の森へ舞い降り、その訃報を察したといいます。それ以後、この中切町では白い馬やウサギなど、白いものは決して育たないと云われています。９月２日には村中で中将様を供養する習わしが続いています。

起倒流　中切棒の手保存会

お阿弥陀さん　ふれあいウォーキング

◆祭り好きな地区

この神事を始め、当区には祭りが数多く伝えられています。秋祭りは伝統の棒の手の披露や、景品付き餅投げがあります。その他春祭り、八王子祭り、お薬師さん、庚申さん、報恩講と年間の祭りが続きます。こうした祭りが現在も受け継がれ、生活の中に定着していることを見ても、住民のまとまりの良さが分かります。

また、昭和５６年からふれあい広場で盆踊りも行っています。近年では、年１回ふれあいウォーキング大会も行っています。いつまでも区民の横のつながりを大切に、区の発展を考えたいと思います。

盆踊り

中切町自治区データ
（H20.4現在）

世帯数：４１世帯
　　　：３９世帯（昭和５２年）
組数：５組
面積：１．４１７Ｋ㎡
自治区たより：「ふれあいだより」年４回
回覧：月２回
ふれあい広場：１箇所
防犯灯設置箇所：１０箇所
小学校：中金小学校区
自治区会館：中切区民会館